『図書館だより』

11月 図書館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	③	4	5
6	⑦	8	9	10	11	12
13	⑭	15	16	17	18	19
20	㉑	22	㉓	24	25	26
27	㉘	29	㉚			

○ 休館日
月曜日　祝日(3，23日)月末館内整理日

あざやかな秋の景色が目の前に広がり、陽ざしを求めています。

◆「昔を読む・今を読む・未来を読む」のテーマで、読書週間を展開していますので、読みたい本、読んでおきたい本を図書館でぜひ探して下さい。

◆新しい本や資料は毎月毎月、一般・児童合わせて、三〇〇タイトル以上購入しています。これら全ては市民の皆様のための資料です。まだ図書館に入られたことがない方々も、どうぞ一度お気軽において下さい。図書やその他の資料は無料で貸し出しをしています。

◆今月中の新着図書のお知らせ

◇一　般　図　書

そして誰かいなくなった夏樹静子
ダンス・ダンス・ダンス村上春樹
遥かなる虎跡　影山民夫
長屋の仇討　井上ひさし
火宅の女―春日局―　平岩弓枝
植物性恋愛　松本侑子
北風に起つ　黒岩重吾
神々が愛でし海　辻　邦生
秋のホテル　A・ブルックナー
奈良・平安ことば百科　東京美術
発掘された日本史　日本文芸社
本居宣長と自然　山下久夫
日本の道100選　ぎょうせい
32ビット・パソコン入門　講談社
10歳からの超電導　橋本　尚
世界を駆ける男　邦光史郎
マー兄ちゃんの西の国から北野大
パックス・ジャポニカ　国井利康
家族で語る食卓の放射能汚染
フラワーラッピング　誠文堂
手軽においしくおたのしみ丼
毎日おいしい豆腐・ダイズ料理
忙しママの安心離乳　光山玲子
6つのセーターのおはなし
わかりやすい食品添加物
お母さんと子供の楽しい英語
外一八〇冊

◇児　童　図　書

ギリシャ神話　星座物語　十二巻
小さなハヤブサの飛ぶ街
絵かきうた絵本　春・夏・秋・冬
一ねん一くみ一ばんゆうき
わたしのおかあさん
ペリカンの冒険
クマのTRがやってきた
ひいおじいちゃんと泥んこケーキ
こねこと7にんの子どもたち
ニコラスどこにいってたの
ごんぎつね
絵本火垂るの墓
ふくろうたちの家
外七五冊
―計―
一般図書　一〇六冊
児童図書　九九冊

〝点字図書・声の図書コーナーからのお知らせ〟

図書館では、視覚障害者の皆様に書物に親しんでいただくために点字図書・声の図書（カセットテープ）コーナーを設けて、貸出しをしております。現在、点字図書六六一冊・声の図書四一三巻を備えておりますのでご利用下さい。

◇新着図書・テープ

▼点　字　図　書

中国四千年の健康㊙百科
俳句の楽しみ方
なんとなくおかしい時の自己診断
女の医学（娘・妻・母）
将棋・勝つための基礎づくり
窓際のトットちゃん
思いでトランプ
長谷川貞夫式　六点漢字熟語辞典
時刻表二万キロ

▼声の図書（カセットテープ）

活力の構造（戦略篇）・（開発篇）
ストレス時代
保養と湯治の里
折々のうた　春・夏・秋・冬
初心こそ株の秘決
火垂るの墓
春琴抄
長岡輝子　宮沢賢治を読む
序の舞
私本　源氏物語
シャーロックホームズ全集　十巻
戦艦大和の最期
野菊の墓
風立ちぬ

国際交流シリーズ⑥
市民外交官として一役

「市民外交官募集」の記事に私の心がときめいたのは、日頃、米英の方と直接お話しすることなど皆無の私が、生の英語に接することの出来る絶好のチャンスだったことと、三年前、市長さんに同行してヘンダーソンビル市へ親善訪問した時お世話になった方々に再会出来ることもその一つにありました。

私達市民外交官は、通訳として、おもてなしのお手伝いにあたりました。私は、以前ヘンダーソンビル市長だったダーハムさんご夫妻の通訳をいたしました。建材会社を経営している氏は、都留市で同業の上谷の堀内さん宅へホームステイしました。話題が建築に関することになると専門語がとび出し、それでなくても英語の語彙の豊富でない私は戸惑ってしまって……「もっと勉強しなくちゃ！」と大いなるはげみとなりました。広報「つる」五月号の三頁のハート型の写真のお二人がダーハムご夫妻です。

また、近所の森島さん宅にホームステイしたスザンヌ・ミラー夫人とも仲良しになりました。スザンヌさんは昨年チビッ子達があちらでお世話になった方で、三人のお子さんの母親です。この都留市訪問は去年のクリスマスにご主人から「クリスマスプレゼント」として贈られたんですって！　森島さんのお宅の朝食の鮭がお気に召して、しきりに料理法をたずねておりました。アメリカでは魚が健康食として見なされており、ご主人のために魚料理をいろいろ知りたいと言われ、都留市とヘンダーソンビルが、もっと近かったらお互いに教えあえるのにとも言っておりました。ダーハム夫人もスザンヌさんも日本語のポケットブックを片手に日本語を使う努力をなされており、帰国してからも日本語を忘れないようにするのだと、本の欄外にこまごまとメモを取っておられましたが、私にとっても、もっともっとアメリカの事を教えていただきたかったという思いで一杯です。

また、このような機会にめぐり会えたら進んで参加したいと思います。

富永　元恵　記